

気まぐれ通信

2022-11-25

こんにちは！気まぐれ通信のページをご覧ください、ありがとうございます。
6月末以来の発行で、文字通り「気まぐれ」通信ですが、お付き合い下さい。



さて今回は、10月22日に行われた、令和4年度の「東京農林水産フェア(以下、財団フェア)」の様子をお届けします。

とうきょう林業サポート隊を運営している東京都農林水産振興財団では、年に1度多くの皆様に東京の農林水産と財団事業の理解を深めていただく目的で、都内産の新鮮な農畜産物や加工品の販売、試験研究の展示や体験コーナーなどを用意して、財団フェアを開催しています。新型コロナウイルスの影響で、人が集まるイベントの多くが中止となり、財団フェアも去年はオンラインでの開催でしたが、今年は立川と青梅の各庁舎へ多くの方々がお来場されました。



フェア前日、とうきょう林業サポート隊事務局が所属している「森の事業課」が担当した「丸太切り」の練習を行ないました。

サポート隊が枝打ちや大刈りで使う鋸は片手でも扱える小さなものですが、今回のイベントでは2人で両側から持って使う、大きな両手挽き鋸を用意しました。

2人の息が合わないと上手く切れないため、お客様をお招きする前に事前練習して「コツ」を掴んでおきました。



「丸太切り」以外にも、多摩産材のチップやコースター販売と絵付け、木製立体パズル、大きなヒマラヤスギを使ったツリークライミングなどを「森の事業課」で担当しましたが、当日の様子は次のページでご紹介いたします。



☆当日の様子



テントブースにラティスを取り付けたり、椅子やテーブルを運び込んだりと、開場前の準備も急ピッチで進みました。





「丸太切り」は順番待ちが出来るほどの盛況でした。切った丸太と鋸を手にガッツポーズ！
「ツリークライミング」は事前予約で満員になる人気イベントでした。
「立体パズルに挑戦」や「木のコースターにお絵描き・木のチップ袋詰め」のブースにも、続々とお客様がお来しになりました。



会場にはキッチンカーが入り、多摩産の食材を使ったメニューを提供しました。
他にも多摩産の野菜販売や、苗木の無償配布(長蛇の列が出来ていました)なども行われました。



**フェア終了後、参加スタッフで集合写真を撮りました。
来年の財団フェアにも、大勢のお客様にお出でいただけますように！**



☆編集後記

**冒頭にも書きましたが、コロナ過で中止やオンライン実施になったイベントがたくさんありました。
サポート隊は、6月下旬からようやく活動人数を9名から12名に戻すことができました。
今年度から週3回の実施になり、今まで以上に参加しやすくなったと思いますが、感染対策には
今まで以上に気を付けて運営していきたいと思います。
これからもとうきょう林業サポート隊をよろしくお願いいたします。**